

ていねいな乾燥作業で 胴割粒発生防止!

令和2年9月2日

長岡農業普及指導センター
緊急稲作情報

電話 0258-38-2554

E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

- 9月2日付けで新潟県フェーン緊急情報4号が発出されました。
- 台風10号の影響により、9月6～8日にかけて、フェーンによる異常高温と乾燥が発生する恐れがあります。
- 適期収穫を行うとともに、ていねいな乾燥作業を行って、胴割粒の発生を防止しましょう。

1 収穫適期を迎えたほ場は早急に収穫

- 早生品種はすでに収穫適期を迎えているほ場が多く、コシヒカリも間もなく収穫適期になります。
- フェーン現象に遭遇し、籾水分が急激に低下した場合は、ほ場段階での胴割れのおそれがあることから、遅れずに収穫しましょう。

2 ていねいな乾燥で胴割防止

フェーン現象などで高温となった場合は、籾水分が急激に低下し、胴割粒が発生しやすい状態になっているので、乾燥速度を低くする（毎時乾減水分0.5%以下）など、乾燥は特に気をつけましょう。

(1) フェーン現象時の日中は、加熱乾燥を避け、常温乾燥

- ・フェーンで湿度が低い場合、加熱乾燥すると、乾燥速度は著しく上がります。
- ・日中は常温で通風循環させ、気温が下がる夜間に点火しましょう。

(2) 低水分籾や倒伏イネは、水分ムラ解消後に仕上げ乾燥

- ・フェーン時の収穫で、籾水分が18%程度まで低下している場合は、胴割れしやすくなります。張り込み後に軽く通風循環した後、夜間まで半日程度貯留して水分のムラを解消してから、加熱乾燥しましょう。
- ・倒伏したほ場でも、籾水分のばらつきが大きいため、胴割れしやすくなります。水分18～20%程度まで乾燥したら一旦停止し、常温の通風循環で穀温を冷ました後、半日程度貯留して水分ムラを解消してから、仕上げ乾燥しましょう。
- ・乾燥機の2段乾燥機能や休止乾燥機能がある場合は活用しましょう

※ 晩生品種では、可能な限り遅くまで土壌水分を保ちましょう